

第1回東京くらし方会議

日時：令和6年5月22日（水）
場所：第一本庁舎 7階 大会議室

【安部次長】

それでは、定刻となりましたので、これより令和6年度第1回東京くらし方会議を開会いたします。本日は、ご多忙の中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

私は事務局を務めます東京都産業労働局次長（働く女性応援担当）の安部でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日の会議は、昨年度と同様ペーパーレスで行い、会議資料は基本的にお手元のタブレットやテレビモニターに表示いたします。

それでは、権丈座長、議事の進行、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

【権丈座長】

どうも、権丈です。本年も引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。委員の皆様にご協力いただき、実りある議論を行いたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

初めに、小池知事から一言ご挨拶を頂ければと思っております。よろしくお願ひします。

【小池知事】

皆様、こんにちは。ご多忙のところ、令和6年度、これが年度として初めてになります東京くらし方会議にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

この会議の中身は大変いろいろなところが注目してくれていまして、そして、ホームページからプリントアウトしたのを持って、これを参考にしてもう少し発信を自分自身もやるんだという永田町関係の人なども結構おられまして、おおっと思っているところです。それだけ、2024年問題も、働き方そのものでもう4月から始まっておりますし、昨今の人口動態についても大変注目が集まっている。何よりも女性がどうその力を生かしていくのかということ、人手が少ないの、人材がどうのといっている中で、本当にこれだけの女性の皆さんの力を生かさないとかねてより申し上げてまいりました。そして、持続可能な社会にするためには、何よりも誰もが自分の個性や能力を十分に生かしていく、発揮をしていく。そして、自らの希望や意思が達成できるような環境をつくっていくことにほかならないと思っております。今のも当たり前の話なんですけれども、その当たり前のことがこれまで十分できていなかったのではないかと思います。この環境をいかにして構築していくのがこの会議のポイントでございまして、多面的な議論を期待するところでございます。

そして、昨年度については、ご承知のように、生き生きと働いて暮らせる社会の実現のためには、都民・企業・行政は何をすべきかということでご意見を伺ってまいりました。また、「年収の壁」ということで、希望に応じたキャリア形成を支えるための施策、また、働く女性を総合的にサポートする「はたらく女性スクエア」を開設することなどで皆様方のご議論が現実にもいろいろと展開されているところでございます。その効果をより大きく出していければと思っております。

そして、海外との比較をしますと、いつもランキングが出るたびにぞっとするんですけれども、前進しているというふうには日本の国内では思っている、世界の思い切り度とか覚悟が全然違って、より戦略的にやっぺいこう。それがその国や社会にとって、何よりも女性にとってもいいということで、その辺の思い切り度が全く違うなと感じることはしばしばございます。

今年度ですけれども、既にご議論いただいている点をさらに深めていただき、掘り下げていただいて、「女性活躍を実現するための方策について」、それをテーマそのものにさせていただいております。意識や制度といった切り口、そして働く女性一人一人の希望を尊重する都市の姿を追求していきたいと思っております。

毎回申し上げているんですけれども、第7代、後藤新平という大先輩になりますが、言うまでもありません。台湾の総督府の中で活躍され、何よりも関東大震災のときの復興院総裁でもあります。そして、東京のまちづくり、初代のボーイスカウトを日本で創設された人です。その方の言葉で、「世の中には3つの重要なことがある。1つが人だ。2番目が人だ。3番目は人だ」とずっとおっしゃったんですね。まさに日本の最大のアセット、そして宝物は人ですので、それはサステナブルにこの社会を続けていくためにどうあるべきなのか。大きな観点から、また、一人一人の目の前の問題点などなどお話を掘り下げていただければと思っております。

どうぞ、先生方、よろしくお願い申し上げます。
長くなりました。失礼いたしました。よろしくお願い致します。

【権丈座長】

どうもありがとうございました。後藤新平が「人だ、人だ、人だ」という話をするんですけれども、年を取ると本当に「要は人だよ」と思います。そういうことで、海外との比較をするととても残念なところがあるんですけれども、先ほど知事がおっしゃったように、ジェンダーギャップを含めて戦略的に物事を考えていくベースとしてこの会議が機能していけばと思っております。皆さん、よろしくお願い致します。

では、皆さん、知事は次のご公務があるためにここで退席されます。お忙しいところ、ありがとうございました。

(知事退席)

【権丈座長】

それでは、早速議事に入りたいと思います。
次第に従いまして、まず初めに事務局から事務局資料のご説明をお願いいたします。

【吉浦部長】

それでは、事務局資料でございます。ポイントのみご説明いたします。資料3をご覧ください。
本日、今年度初回でございますので、改めて東京暮らし方会議の位置づけをお示ししております。
続きまして、委員名簿でございます。本日はご欠席でございますが、資生堂の廣藤委員に新たに御参加いただくことになりました。

次、3ページから3枚にわたりまして、昨年度発表いたしました暮らし方会議委員意見集での課題提起に沿いまして、これまで頂いた主なご意見をまとめております。今年度は、先ほど知事から発言のありましたとおり、「女性活躍を実現するための方策について」を全体のテーマといたしまして、意識や制度を変えるための具体的なご意見を頂きたいと考えております。

日本全体で見ますと、女性活躍は世界に大きく後れを取っておりまして、2023年の日本のジェンダーギャップ指数は125位となっております。こうした状況を踏まえて、働く女性を取り巻く現状について基礎データをまとめております。

7から8ページでは、女性の正規雇用比率が20代後半頃から低下するL字カーブについてお示ししております。

9ページから6枚にわたりまして、働く女性が抱える課題について、育児や家事、介護負担、健康問題といった切り口から見たデータをお示ししております。9ページは育児のための各制度の利用状況です。短時間勤務制度や所定外労働の制限などの制度の利用に関しては、女性のみとなっている事業所が9割以上となっております。10ページでは第一子出産後の就業継続状況、11ページでは末子の妊娠・出産前との仕事の変化についてお示ししております。12ページは男女別に見た生活時間、13ページは介護離職者の現状です。14ページは、女性労働者が抱える健康課題と仕事への影響に関するデータでございます。女性労働者の約5割が女性特有の健康課題などにより職場で困った経験があると回答しています。

15ページからの3枚は、男女間の賃金格差に関するデータです。15、16ページでは、国内外における男女間賃金格差の状況を示しております。17ページは、男女間賃金格差の主な要因を示しており、差異の最も大きな要因は役職となっております。

18ページからは、その役職に関するデータをお示ししております。18、19ページは、国内外における管理職等に占める女性割合です。管理職等に占める女性割合は、長期的には上昇傾向にあるものの、依然低い水準にとどまっております。

20ページからの3枚は、働く女性に関する意識に関するデータです。20ページでは、進路・職業に対する性別による思い込みについてお示ししております。21ページは、職場の役割分担に関する意識に関するデータです。男性は、「男性なら残業や休日出勤が当たり前」、「同程度の実力なら、まず男性から昇進・管理職へ登用すべき」と思う傾向が強くなっております。22ページでは、管理職に対す

る女性の意向に関するデータです。管理職になることについて、男性は「引き受ける」という回答が多いのに対し、女性は「引き受けない・現時点ではわからない」が6割近くを占めております。

23ページからの2枚は、非正規雇用に関するデータです。23ページは、産業別雇用者の雇用形態別割合で、女性は正規雇用比率が低く、半分以上は非正規雇用労働者となっている一方、男性雇用者の約8割が正規雇用労働者となっております。24ページでは、パートタイマーの就労状況についてお示ししております。

25ページからの4枚では、いわゆる「年収の壁」について、当局が行った調査の結果をお示ししております。既婚、都内在勤の女性パート労働者から回答を頂きました。25ページ、26ページは、「年収の壁」を意識している人の割合です。25ページでは、全体の64.4%が「年収の壁」の範囲内で就労していると答えています。26ページでは、第3号被保険者の約8割が壁を意識して働いていると答えています。27、28ページは、どの「年収の壁」が意識されているか調べたものです。27ページでは、約8割が106万円以下で就業調整していると回答しています。28ページでは、「年収の壁」の内容の理解について、全体の6割以上が「わからない・知らない」と回答しています。

30ページ以降は参考資料としまして、令和6年度予算案の概要、昨年度くらし方会議として公表した就業パターン別の生涯収入の試算、東京くらし方会議のメディア掲載状況を添付しております。

大変雑駁ではございますが、事務局からの説明は以上です。

【権丈座長】

どうもありがとうございました。
ここで一度事務局にお返しします。

【安部次長】

では、報道の方におかれましては、申し訳ございませんが、事前のご案内のとおり退席をお願いいたします。ありがとうございました。

また、配信もここで終了となります。